科目コード	記号	科　目　名	学年	単位・時間	必修・選択	授業形態	単位種別
2007	MBG06	世界史：World History	2MB	2・90分	必修	講義・通年	履修単位
教員名		上田　蕃穂：　UEDA　Shigeho					

授業概要

世界史は高等学校の必修科目で、本校では「世界史A」（2単位）を履修する。「世界史A」の学習では近代・現代の歴史に重点をおくことになっており、授業時間の制約もあり、「一体化する世界」「現代の世界と日本」を主に取り扱う。それ以前の諸地域の特色や時代の流れ、地域間の交流にも触れながら、近現代史を中心とした世界の歴史の大きな流れを学習していく。そのことが、「他者や他国の立場を視野に入れ」た幅広い見地から物事を判断し、さらに現在の諸問題・課題を、世界的・地球的視野にたって判断できる力となるはずである。

到達目標	評価方法
（1）各地域・国の文化や歴史を理解できること。 （2）同時代の他の地域・国との交流・関係を理解できること。 （3）基本的な歴史事項と世界史の大きな流れを理解できること。	①中間考査（36%） ②期末考査（36%） ③宿題（18%） ④小テスト（10%）

学習・教育目標	（F）	JABEE基準1（1）	

授業計画

前期 回	項目	内容	後期 回	項目	内容
第1	はじめに 諸地域世界の交流	歴史を学ぶ大切さ・評価方法および「一体化に向かう世界」以前の歴史を説明する。	第16	近代国民国家の形成と展開（2）	アメリカ合衆国の発展と帝国主義の時代について説明する。
第2	一体化に向かう世界(1)	ルネサンスについて説明する。	第17	アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動（1）	西アジアの変動とインドの衰退について説明する。
第3	一体化する世界（2）	宗教改革と大航海時代について説明する。	第18	アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動（2）	インド・東南アジアの植民地化とアフリカ・太平洋の分割について説明する。
第4	イスラーム諸国家の成熟（1）	イスラーム世界の安定について説明する。	第19	東アジアと日本の動向（1）	中華帝国の動揺について説明する。
第5	イスラーム諸国家の成熟（2）	オスマン帝国について説明する。	第20	東アジアと日本の動向（2）	洋務運動と日本・朝鮮の開国について説明する。
第6	清帝国と東アジア	明・清について説明する。	第21	東アジアと日本の動向（3）	日清戦争・列強の侵略・義和団事件・辛亥革命について説明する。
第7	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。	第22	中間まとめ	中間まとめとして試験を実施する。
第8	ヨーロッパの主権国家体制（1）	スペイン・オランダ・イギリスについて説明する。	第23	第一次世界大戦とロシア革命（1）	第一次世界大戦の背景と経過・特徴について説明する。
第9	ヨーロッパの主権国家体制（2）	フランス・ドイツ・ロシアについて説明する。	第24	第一次世界大戦とロシア革命（2）	ロシア革命とソ連の成立について説明する。
第10	工業化社会の到来	産業革命について説明する。	第25	戦間期の世界（1）	ヴェルサイユ・ワシントン会議と1920年代の欧米について説明する。
第11	アメリカの独立とヨーロッパの革命（1）	アメリカの独立について説明する。	第26	戦間期の世界（2）	世界恐慌とファシズムの台頭について説明する。
第12	アメリカの独立とヨーロッパの革命（2）	フランス革命について説明する。	第27	民族運動の高揚	アジア各地の民族運動と五・四運動以後の中国史について説明する。
第13	アメリカの独立とヨーロッパの革命（3）	ナポレオン戦争とウィーン体制について説明する。	第28	第二次世界大戦	第二次世界大戦の背景と経過・特徴について説明する。
第14	近代国民国家の形成と展開（1）	イタリア・ドイツの統一・ロシアの改革について説明する。	第29	戦後の世界	冷戦構造と緊張緩和について説明する。
第15	まとめ	試験の解答とこれまでのまとめを行う。	第30	おわりに	試験の解答とアンケートを実施する。

関連科目	現代社会、政治経済
教科書	『世界史A　新訂版』（実教出版）
参考書	『プロムナード世界史』（浜島書店）
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。
副担当教員	岩元　修一（IWAMOTO　Shuichi）
備考	教科書・プロムナードとも毎回必ず持参すること（不携帯は減点の対象となります）。